図書館だより

5月の主な受け入れ図書

①本田由紀著『若者と仕事』東京大学出版会（vi+224頁,A5判）
かつて労働組合が社会問題とされたように、現在、若者が社会問題視されている。問題とは、本人が悩み、社会も悩むことである。そこに解決に向けたベクトルが発生する。著者は、学校経由の就職、教育の職業的意義をキーワードに分析し、若者が知識や能力を身に付け、「自信と誇り」をもって飛び立っていくことを願っている。

②秋山真志著『職業外伝』ポプラ社（311頁,B6判）
生り業（なりわい）・職業とは文字通り、生きるための業（わざ）である。本書のタイトルに「外伝」とあるように、通常はまともな職業とはみなされていない幇間、彫師など12の生業が生き生きと描かれている。雇用・就業形態の多様化が枕詞のように使われているが、本書の中に、多様なかけがえのない生き方が描かれている。

③橋爪祐美著『働く女性の介護生活』風間書房（iii+173頁,A5判）
世界でも有数の在宅介護推進施策を有する日本において、働きながら老親を在宅介護する女性（娘・嫁）を対象に、彼女たちの生活を理論に基づき綿密に記述している。晩婚化によって、これまでは、子育てが一段落した後に老親介護という順番であったが、同時化している事例も出現しており、介護研究は喫緊の課題となりつつある。

④橋木俊詔他著『日本のお金持ち研究』日本経済新聞社（viii+227頁,B6判）
日本でも、貧富の格差拡大に警鐘が鳴らされている。それに伴い、富裕層に研究関心が集まり始めている。本書は、高額所得者に対するアンケート・インタビュー調査に、歴史研究も加えた初めての本格的な研究書と言える。他人の懐具合を忖度するのを忌避する傾向があったが、拱手傍観する時代はとうに過ぎたのではないだろうか。

⑤都留康他著『日本企業の人事改革』東洋経済新報社（x+260頁,A5判）
本書は、機械関連メーカー、商社、装置産業企業の3社の人事担当者の協力を得て行った、人事データの分析、従業員意識調査、聞き取り調査の成果である。成果主義のメリット、デメリットが喧伝されているが、社員格付制度、基本給・賞与の決め方、人事考課等を重層的に分析している。成果主義研究の参考文献となるであろう。

⑥藤本昌代著『専門職の転職構造』文眞堂（iii+284頁,A5判）
専門職は、横断的労働市場が形成され、頻繁に転職が行われていると思われている。しかし、著者は、「組織に愛着をもつ専門職の存在」に疑問をもち、ローカル・マキシマム概念により、垂直方向と水平方向の移動の可能性を分析している。当該専門職が、限られた範囲で最大値の場合に移動が抑制されるとの仮説を提示している。

⑦森宮勝子著『高齢社会の介護ビジネス』千倉書房（287頁,A5判）
⑧佐々木寿美著『現代日本の政策形成と住民意識』慶應義塾大学出版会（ix+175頁,A5判）
⑨竹原利栄著『体験的精神障害者福祉論』晃洋書房（vii+247頁,A5判）
⑩伊藤セツ他編著『生活時間と生活福祉』光生館（vi+234頁,A5判）
⑪北岡伸一他編『年金改革の政治経済学』東洋経済新報社（xv+236頁,A5判）
⑫大淵寛他編著『少子化の社会経済学』原書房（ix+218頁,A5判）
⑬姫岡とし子他編『労働のジェンダー化』平凡社（345頁,A5判）
⑭菅野和夫他編著『ケースブック労働法』弘文堂（xv+525頁,A5判）
⑮赤岡功他編著『労務管理と人的資源管理の構図』中央経済社（3+iv+232頁,A5判）
⑯松村高夫著『イギリスの鉄道争議と裁判』ミネルヴァ書房（xiv+239+42頁,A5判）

（新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください）

今月の耳より情報

公立、民間を問わず、図書館運営経費の削減を憂える声が全国各地から聞こえてくる。また、必要な情報もテレビ・ラジオ・新聞はもとより、情報技術ITの進展によりオンラインでの入手も可能になってきている。図書館を取り巻く状況が厳しくなり、競合する媒体・手段も多くなってきているのである。情報提供方法の多様化の中で、図書館のあり方が問われていると言える。このような予算制約・競合状況の下で、優先順位の高い資料を収集しつつも、特色のある蔵書構成を形作っていくにはどうしたらいいか。図書館界の苦闘は続いている。ただ、救いはIT技術の進展は、図書館の存在を脅かすと同時に、図書館機能を補完する助けともなっていることである。その代表例が図書館間貸出ILLである。国立情報学研究所NIIがネットワークした図書館の所蔵図書が相互貸出可能になっている。同じように、当館で所蔵している図書については、お近くの図書館から連絡をいただければ、その図書館に貸し出すサービスも実施している。インターネットを通じて蔵書検索を行い、貸出を希望する図書が見つかれば、来館せずとも、お近くの図書館から借り出すことができる。国内有数の労働関係の専門図書館である当館が、立地条件にかかわらず、日本全国どこからでも利用可能となる。ユニバーサル図書館の第一歩と言えるのではないだろうか。

図書館長のつぶやき

どこの世界・職業にも達人はいるものである。図書館界にも何人もいるであろう。この世界に入って一年半である新参者の小才は、『図書館に訊け！』を著した井上真琴氏ご自身とその著書で紹介されている人々などはきっとそういう人たちであろうと睨んでいる。図書館にもいろいろな仕事があるが、選書―登録―配架―利用の流れと、資料と利用者をつなぐ問い合わせへの対応（レファレンス・サービス）、それにコピーサービスや付加的サービスに大別される。その中で選書・貸出とレファレンス対応が二大業務であろう。日本国内だけでも年間数万点もの新刊本が出版されるが、その中から、限られた予算の下で自館が所蔵すべき図書を的確に選定するのは神業的な選書術が必要とされるし、日々多種多様な問い合わせに短時間で適切な回答を見つけ出すのも達人にしかできない芸当であろう。当機構の研究員の助けを借りながら、選書、レファレンス対応において、達人の域に一歩でも近づくよう努力しているところである。継続は力であるとの格言もある。5年後の小才に、乞うご期待!?

ご案内 労働図書館（資料センター）

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書97,000冊、洋書25,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。この他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌（490種）、洋雑誌（220種）、紀要（450種）、組合機関誌・紙についても、受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO（国際労働機関）総会の議事録やOECD（経済協力開発機構）の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間：9:30～17:00
休　館　日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始（12月28日～1月4日）、その他
電話番号：03(5991)5032／FAX：03(5991)5659
利用資格：閲覧はどなたでも自由にできます
貸　　出：和書・洋書とも2週間、5冊までです
※身分証明書（運転免許証、健康保険証など）をお持ちください
レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています